

1. ビール大麦「おうみゆたか」の後期追肥施用時期と子実蛋白質含量（情報）			
[要約] 「おうみゆたか」の子実蛋白質含量を向上するには、幼穂長 5 mm 期を過ぎてから施肥する必要がある。1 回の施用で蛋白質含量と収量を向上し、稈の伸長を防ぐには、幼穂長 10mm 期頃かそれよりやや遅めの穂肥がよい。			
研究室名	作物研究室	連絡先	086-955-0275

[背景・ねらい]

本県産ビール大麦の蛋白質含量は品質目標の 10～11%から外れるものが多く、その適正化が強く望まれている。そこで、蛋白質含量の低い「おうみゆたか」について施肥時期を異にした穂肥、あるいは実肥などの後期追肥が蛋白質含量と収量に及ぼす影響を明らかにし、高品質、安定生産に資する。

[成果の概要・特徴]

1. 子実の蛋白質含量は、幼穂長 5 mm 期以前の施肥では必ずしも増加せず、これ以降で遅い施肥ほど増加した（図 1）。
2. 収量は幼穂長 5～37mm 期頃の施用で多かったが、これより遅い穂肥と実肥は増収効果が低かった（図 1）。
3. 幼穂長 5 mm 期以前の施肥では、無施用に比べて稈長が最大 12%伸長した（図 1）。
4. 幼穂長 37mm 期以後の施用では遅発穂が多発した（図表省略）。
5. 幼穂長、幼稈長、草丈の推移は図 2 のとおりであり、幼穂長 10mm 期は、幼稈長 4.5～5.5cm、草丈 27～32cm 程度であった（平成 15～18 年産）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県中南部のドリル播栽培に適用する。
2. 蛋白質含量は播種時期、播種量によって異なってくるので、関連情報を参照に中間追肥量と穂肥量を調節する。
3. 幼穂長 10mm 期であっても窒素 4 kg/10 a 以上の穂肥は遅発穂の多発を招くので避ける。

[具体的データ]

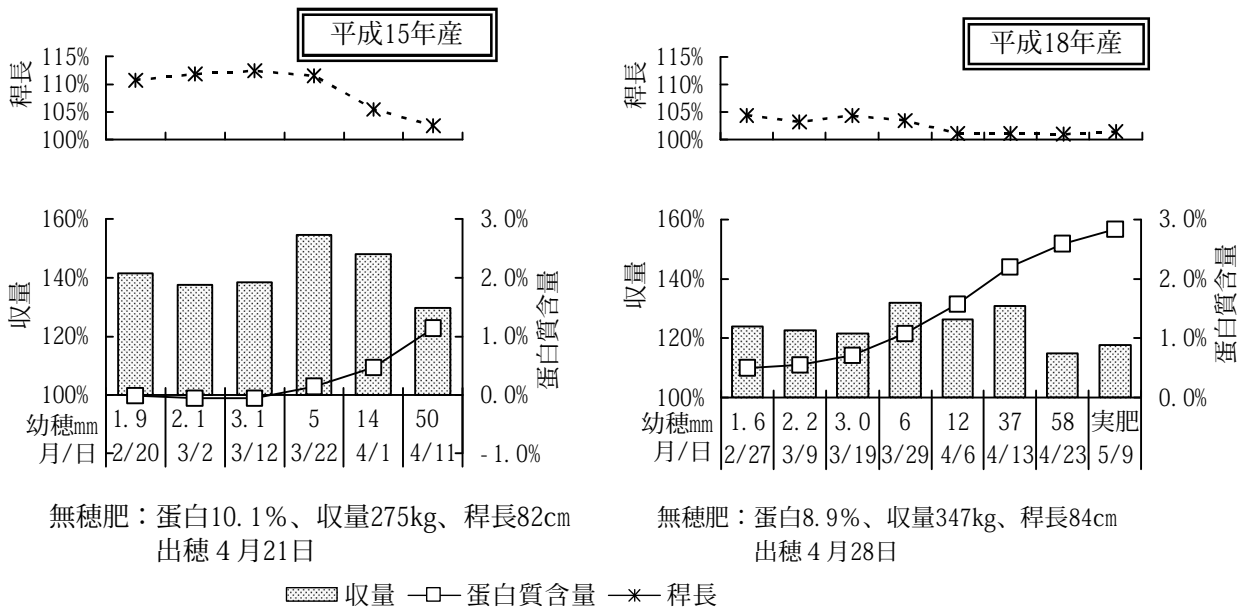


図1 後期追肥施用時の幼穂長と子実収量、蛋白質含量及び稈長

注 窒素施肥：基肥 5 kg、2月4日追肥 2 kg施用後、各期に 3 kg/10 a 施用

蛋白質含量は無追肥区を0とする差で、収量、稈長は無追肥区を100%とする比で示す

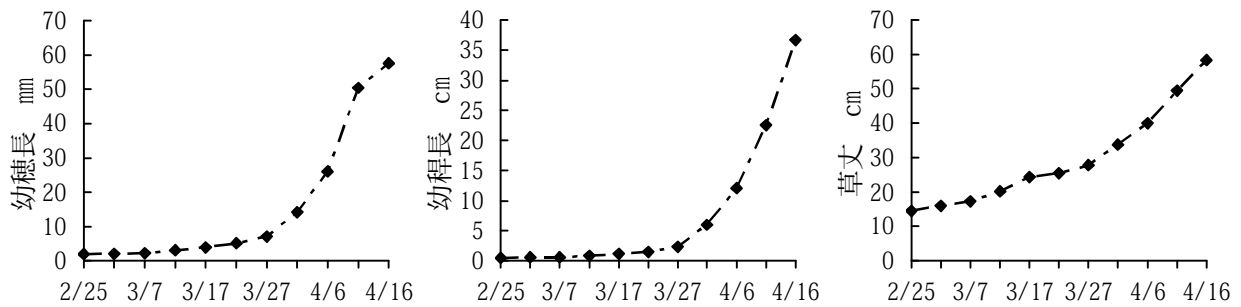


図2 幼穂長、幼稈長及び草丈の推移（平成15年産）

[その他]

試験研究課題・事業名：中国地域における麦類の高品質・安定多収栽培技術の確立

予算区分：受託（平成 15～17 年）、県単（平成 18 年）

研究期間：平成 15～18 年度

関連情報等：平成 17 年度試験研究主要成果「ビール大麦「おうみゆたか」の播種時期別の播種量と施肥方法（情報）」